

ちいきをつなぐ

みやぎボランティア総合センターからボランティア活動や防災活動、福祉教育などさまざまな情報を発信します

復旧から復興へ、

そして地域おこしへ

一般社団法人ReRoots（リルーツ）の取り組み

東日本大震災から2年9カ月が経過し、現在までさまざまな復興支援のボランティア活動が行われています。大きな被害を受けた仙台市若林区は古くから宮城県有数の農業地域であり、農業は被災地域の住民にとって生活の基盤でした。今回は、農業を足がかりに地域づくりに取り組む一般社団法人ReRoots（リルーツ）の活動を紹介します。

学生たちが中心に

リルーツは東日本大震災の直後、仙台市青葉区にある川内コミュニティセンターに避難していた学生や地域住民によって、自然にでき上がった避難所運営のボランティアグループが母体になっています。その後、仙台市若林区の農地に着目し、農家の目線に立った支援を中心としたボランティア活動に取り組みできました。現在までのべ約2万7千人の方がボランティア活動に参加しています。



畑から瓦礫を掘りおこす様子

「復旧支援としては、農地の土を掘り返し、細かい瓦礫を取り除くボランティア活動を行っており、年内には終了する見通しです。現在は復旧支援から復興支援へ移り変わる過渡期に入っています」と説明してくださいました。この地域における課題は本格的営農の再開と失われた景観をどう再生するか、そして、バラバラになってしまったコミュニティをどう再生していくかということ。また、防災への取り組みも課題の一つにあげられます。同法人学生メンバーはプロジェクトチームを作り、これらの課題についても取

り組んでいます。

当事者目線で考える

「大事なことは必ず農家の目線や地元主体性を尊重して考えること。農作業をする中で、震災後、失意にあつた住民の方から被災



農作業の様子。ていねいな作業で、おいしい野菜を作ります。

当時はどうだったか、今どのような悩みを抱えているかなど話を聞くことで、住民自身の営農意欲を引き出され、一緒にプロジェクトを考えていこうという意気込みにつながっています」と広瀬代表は話されます。重要なことは農家の力を引き出して（エンパワメントし）、営農再開を果たすとともに、地域のコミュニティを作っていくこと。そして今後、どのようなことをすれば人を呼び込むことができるかを、農家の方に展望として示していくことが求められています。

地域おこしに向けて

今後の見通しを広瀬代表に伺ったと

ころ、「農業を活性化するだけでなく、復興支援の先は地域おこし。そのためには農業・農村に注目し、コミュニティをどうつくりあげることが重要になります。農業は人を呼び込む魅力を持っています。食育や福祉、労働体験など、色々なものと結び付けることができると思います」とこれからの農業の可能性についても話されていました。宮城県社協では市町村社協や福祉団体、行政機関の皆さんと連携・協力しながら、被災された方の1日も早い生活再建に向け、各種事業に取り組んでいます。状況の変化を想定しながら、さまざまなプロジェクトに取り組むリルーツの今後の活動が期待されています。地域に根差し、地域に貢献するこの取り組みは若林区の地域再生の大きな原動力になっていくのではないのでしょうか。



活動を支えるReRootsのボランティアスタッフ

宮城いきいきシニアだより

県内にお住まいの元気シニアを紹介いたします！

地域でできること

宮城いきいき学園気仙沼・本吉校
12期生 大井 憲一

私たち、宮城いきいき学園気仙沼・本吉校12期生は、平成22年3月に学園を卒業しました。東日本大震災では、私たちの仲間の1人が亡くなり、その多くが家を流しました。震災の2年前に新築した私の家も、津波で壊されましてが、なんとか修理し生活しています。私たちはいきいき学園同窓会の一員として、6月から11月まで「花の道」の植栽活動に毎年参加しています。



「花の道」は国道45号バイパスの約4キロにわたる花壇です。その植栽活動には、自治会、沿道の中学校、老人クラブなど市民ボランティア40数団体が参加し、それぞれ分担して整備してきました。サルビア（赤色）、ブルーサルビア（青色）、マリーゴールド（黄色）など3万本を植えドライバーの目を楽しませています。同窓会では、6月に植栽し、7月から10月まで毎月第一火曜日の朝6時から除草作業をし、11月に花の撤去作業を行っています。

被災地では津波被害の影響により転出や転居を余儀なくされた方が多数います。私が住んでいる地区では、地区社協の会長も震災の被害を受け転居したため、急きよ私が会長に選任された責任の重さを痛感しています。

昨年、地区社協として震災以来2年ぶりに、「敬老会」を開催し、皆さんに喜ばれました。今年は、仮設住宅などで生活している方々との交流と懇親を目的に「日帰り温泉旅行」を計画し、10月に30人以上の参加を得て実施しました。地域に生きるものとして、自分にできる責務を果たしてまいりたいと思います。

相談Q&A

宮城県福祉人材センター（福祉人材無料職業紹介所）の窓口相談の中から相談事例を紹介します。



Q. 4月から始まった介護職員初任者研修とはどんな資格ですか？
A. ヘルパー2級課程を引き継いだ内容の研修です。大きな違いは130時間の講義と演習の後に、筆記試験が課せられるようになったことです。また現場実習が廃止になり、実技演習の時間が増えました。（それぞれの介護職員養成学校の判断により、現場実習を行う、行わない、希望に応じて実施するなどの違いがあります。）

Q. 介護福祉士の取得方法は変わりますか？
A. 平成27年度（平成28年1月実施）介護福祉士国家試験より、現行の実務経験3年に加えて、介護職員実務者研修を修了することが受験資格となる予定です。詳しいことは、福祉人材センターにお問い合わせ下さい。

また福祉全般の相談については、県内ハローワーク9カ所（気仙沼・築館・迫・古川・大和・石巻・塩釜・大河原・白石）に人材センター職員が移動相談に出かけていますので、日程を確認のうえご参加ください。

宮城県福祉人材センター

○利用時間

9時～17時

（月曜～金曜・第3土曜日）

○休日

土曜・日曜・祝祭日・年末年始

○お問い合わせ

〒980-0014

仙台市青葉区本町3丁目7-4

宮城県社会福祉会館1階

TEL 022(262)9777

FAX 022(261)9555

